

平成 2 7 年度

— 第 1 0 回（定例・臨時） —

教育委員会議事録

開 会	平成 2 7 年 1 0 月 1 3 日	午前 午後	1 4 時 3 0 分			
閉 会	平成 2 7 年 1 0 月 1 3 日	午前 午後	1 6 時 1 5 分			
会 議 場 所	教育委員室					
委員出欠	花山院弘匡	出	佐藤 進	出	森本哲次	出
	藤井宣夫	出	高本恭子	出		
議事録署名	教 育 長					
委 員	教育長職務代理者					
書 記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議案及び議事内容	結果
<p>次 第</p> <p>議決事項 1 奈良県立高等学校入学者募集人員について</p> <p>議決事項 2 文化財保護功労者感謝状の贈呈について</p> <p>報告事項 1 奈良県ジュニア美術展覧会の教育委員会賞の受賞者について</p>	<p>可 決</p> <p>可 決</p> <p>承 認</p>
<p>○吉田教育長「ただ今から、平成27年度第10回定例教育委員会を開催いたします。本日は委員全員出席で委員会は成立しております。」</p>	
<p>○吉田教育長「まず、前々回及び前回の定例教育委員会議事録の承認についてです。お手元に配布している議事録について、各委員内容をご確認ください。ご承認をいただけますか。」</p> <p style="text-align: center;">※ 各委員一致で承認</p> <p>○吉田教育長「本日の議決事項 2 は、人事に関する案件であり、秘密会において審議すべきものと考えます。委員のみなさまにお諮りします。いかがでしょうか。」</p> <p style="text-align: center;">※ 各委員一致で可決</p>	<p>承 認</p> <p>可 決</p>
<p>議決事項 1 奈良県立高等学校入学者募集人員について</p>	
<p>○吉田教育長「それでは『奈良県立高等学校入学者募集人員』について、ご説明をお願いします。」</p> <p>○大西学校教育課長「平成28年度奈良県立高等学校入学者募集人員について、ご説明します。まず全日制課程の募集人員についてです。平成28年3月の県内中学校卒業予定者数は、本年5月1日現在の学校基本調査による、中学3年生の在籍生徒数とほぼ同数の13,394人と推定しました。これは、平成27年実数と比較して513人少ない見込です。このうちの高等学校推定進学率については、ここ数年の平均97%前後で推移していることから、高止まりしつつあると判断し、昨年度と同様に97.0%と推定しました。卒業予定者数に推定進学率を乗じて算出した平成28年度高等学校進学者推定数は、12,993人となり、昨年度より512名減少となりました。平成28年度高等学校進学者推定数のうち、公立学校の全日制課程で受け入れる生徒数については、近年の推移を反映して63%程度、8,218人、208学級と見込みました。昨年度と比較して4学級の減、全体の募集人員も160人減となります。平城高等学校と郡山高等学校、それぞれ10クラスから9クラス、橿原高等学校の9クラスから8クラス、榛生昇陽高等学校の普通科を1クラス減とします。地区別に見ますと、中部地域全体における中学校卒業生が減少することを考慮しまして、4高等学校でそれぞれ1クラス減としました。続いて、定時制課程の募集人員についてです。今年度の募集人員と同数の342人とし、市・村立の分校60人と合わせて、402人11クラスとしました。更に通信課程についても、今年度と同数の150人を大和中央高等学校で募集することとしました。」</p>	

議案及び議事内容

○吉田教育長「ただいまの件につきまして、ご意見、ご質問はございませんか。」

○花山院委員「奈良県は全県一区であり、生徒の全体的な学力バランスの動向、施設、大規模校である等、事情はあると思いますが、平城、郡山、橿原、榛生昇陽で4クラス減とした理由についてもう少しご説明ください。」

○大西学校教育課長「今後10年間の生徒数の減少に伴い、適正化を進めていく必要があります。前回（平成16年）の再編で適正規模が8クラスと報告されたこと、他県と比較して普通科が多いということもあり、2校各10クラスを9クラスに減じ、そのバランスを取ることを考慮しました。」

○花山院委員「各学校の募集については、県全体で動向をみながら決めていけば良いと思いますが、県民が気にするところですので、しっかりとした方針を明確に出していくことが必要だと思います。」

○吉田教育長「南部東部の交通が不便なところは、定員割れをしている高校もあります。適正化については学校個別の議論になると思うので、今後教育委員会で考えていかないとはいけません。」

○吉田教育長「他にご意見がないようですので、原案どおり議決してよろしいか。」

※各委員一致で可決

○吉田教育長「議決事項1については可決いたします。」

報告事項1 奈良県ジュニア美術展覧会の教育委員会賞の受賞者について

○吉田教育長「それでは『奈良県ジュニア美術展覧会の教育委員会賞の受賞者』について、ご報告をお願いします。」

○九鬼人権・地域教育課長補佐「奈良県ジュニア美術展覧会の教育委員会賞の受賞者について、ご報告します。」

奈良県・奈良県教育委員会主催による、第42回奈良県ジュニア美術展覧会の入賞者表彰式を、平成27年9月20日の日曜日、奈良県文化会館小ホールで実施し、日本画、洋画、彫刻など、6部門の優れた作品ごとに、それぞれ教育委員会賞を授与いたしました。

この展覧会は、県内の青少年の美術活動の充実と振興を図ることを目的として、県内に在住・在学・在勤する、中学3年生以上20歳未満の皆様から作品を公募し、各部門の審査員により決定した入選・入賞作品を展示するものです。

この度は、『奈良県教育委員会の権限に属する事務の教育長専決に関する規程』第2条第1項3号に基づき、教育長が専決を行ったものであり、同規程の第3条第2項に基づき報告させていただきます。」

○吉田教育長「ただいまの件につきまして、ご意見、ご質問はございませんか。」

○森本委員「各部門の審査員は学校の先生ですか。」

○九鬼人権・地域教育課長補佐「先生に限定しておりません。それぞれの部門の専門家の方、芸術家の方に審査していただいています。」

○花山院委員「展覧会は対象世代の芸術活動を奨励するもので、入賞は、芸術を目指す方のより

議案及び議事内容

励みになるものと思われます。その趣旨を踏まえ、上位受賞作品だけでも、なるべく人の目に触れるようなところに展示することはできませんか。」

○九鬼人権・地域教育課長補佐「関係所属と協議して、検討いたします。」

○吉田教育長「他にご意見がないようですので、承認してよろしいか。」

※各委員一致で承認

○吉田教育長「報告事項1については承認いたします。」

その他報告事項

○吉田教育長「その他報告事項について、報告願います。」

○中村次長「平成27監査年度第1回監査結果報告書の概要です。監査の結果につきましては、地方自治法第199条第9項の規定により、監査委員から各行政委員会への報告が提出されることとなっています。この第1回報告書が9月14日付けで提出されましたので、ご報告します。

この報告は、平成27年1月から8月にかけての定期監査、工事監査及び財政的援助団体等監査の結果報告ですが、教育委員会関係では定期監査分が該当します。

部局別指摘事項等件数について、指摘事項は全体が25件、注意事項が51件、意見が23件で、合計99件ありました。そのうち教育委員会は、指摘事項が7件、注意事項が13件、意見が3件で、合計23件ありました。

教育委員会に関する指摘事項等の概要ですが、支出関係、委託事務等に関する事務手続きなどで、多くの注意を受けています。教育委員会は、県立学校なども含むため所属数は多いとはいうものの、他の部局に比べて多い状況となっています。

引き続き、各所属に対し事務処理のルール徹底を図り、各所属の内部チェック機能の強化等の取組を進めます。」

○塩見教職員課長「平成28年度奈良県・大和高田市公立学校教員採用候補者選考第2次試験結果について、ご報告します。

合格者総数は399人で、校種別では小学校185人、中学校100人、高等学校53人、特別支援学校37人、養護教諭16人、栄養教諭6人、実習助手2人です。養護教諭の1人は大和高田市立高田商業高等学校に採用予定です。

合格者の内訳について、男女別では女性が昨年より2.3ポイントの増、新卒既卒別では既卒が5.3ポイントの増、年齢別では25歳以下が6割を占めておりますが、受験資格の上限年齢を50歳まで引き上げたこともあり、合格者の平均年齢が26.3歳、昨年より1.2歳上昇しました。最高年齢は、高等学校の数学で50歳となりました。

校種別の採用予定者数について、昨年より小学校では15人減、中学校25人減、高等学校で1人減、実習助手で1人減です。なお特別支援学校の採用予定者数38人に対して、第2次合格者数が37人となっておりますが、明日（10月14日）発表予定の盲学校理療科教員の1名を加えて38人となります。更に特別支援学校の採用予定者数37人には、身体障害者特別選考での合格者1名を含んでいます。

受験者数は、昨年在2,455人で今年2,553人、98人増えています。採用倍率は、6.4倍、昨年より0.8ポイント増えています。校種別には、小学校は昨年より0.3ポイント高い4.5倍、中学校は1.9ポイント高い8.2倍、高等学校は1.1ポイント高い10.3倍、特別支援学校は0.6ポイント高い4.0倍、養護教諭は0.4ポイント低い8.0倍、栄養教諭は0.3ポイント高い8.5倍、実習助手は3.5ポイント高い11.5倍となりました。倍率の高い校種・教科は、高い順に高等学校の地歴で23.0倍、高等学校の保健体育で21.2倍、倍率低い校種・教科は、低い順に高等学校の家庭（製菓）で2.0倍、高等学校の農業で2.5倍となりました。

議案及び議事内容

今年度の採用試験では、教諭として3年以上勤務している者、または直近5年間における奈良県での3年以上の講師歴のある者は、1次試験での一般教養を免除をする教職経験特別選考を実施し、83人が合格しました。合格率は20.0%です。なお今年度の合格者に占める講師の割合は、48.6%となり、昨年よりも14ポイント増、一昨年と比べても9ポイントの増となっています。受験資格の年齢制限を44歳から50歳まで引き上げたことや、2次での筆記試験を無くし、面接重視としたことが影響していると考えられます。

今後も教員の年齢構成を踏まえ、退職者や国の定数改善、学校の統廃合を見極めながら、中長期的な見通しをもって対応したいと考えています。」

○花山院委員「年齢上限を上げて能力のある方を採用することは素晴らしいことですが、それによる実際的なメリットをもう少しご説明ください。」

○塩見教職員課長「講師経験豊かな方、教諭を辞めて講師をされている方など経験の多い方もいらっしゃるのですが、そのような方の採用も意図して、採用試験の受験資格の年齢を引き上げました。それと教員の年齢分布の特徴として、50歳以上と20歳代で大きなヤマがあり、ある程度の期間で平準化を図る必要があると考えています。」

○森本委員「実習助手は昨年より1人減っていますが、採用の枠はどうやって決めていますか。また実習助手されていた方が、教諭になるため採用試験を受験した場合に、加点などの仕組みはありますか。」

○塩見教職員課長「今年採用が2人になっているのは、退職等の理由によるものです。実習助手が教員採用試験を受験した際の加点や、一次試験免除などの対応はありません。」

○九鬼人権・地域教育課長補佐「全国水平社創立宣言と関係資料の世界記憶遺産登録候補選考結果について、ご報告します。

この件については平成27年4月23日の第2回定例教育委員会において、ユネスコ世界記憶遺産登録をめざす会（以下、「めざす会」という。）の賛同会員登録及び賛同署名の議決をいただきましたが、9月24日のユネスコ国内委員会の第15回ユネスコ世界記憶遺産選考委員会が開催され、残念ながら登録候補から外れました。10月1日には、めざす会から、県教育委員会の協力・支援に関して、礼状が届いています。これによりますと、めざす会は今後、世界遺産登録に向けて活動を再開することになれば、引き続き支援をいただきたいとのことです。

経緯について、3月26日に賛同署名依頼と賛同会員登録依頼の文書が届きました。これを受けて4月23日に定例教育委員会において議決、翌日めざす会にその旨回答をいたしました。めざす会は6月3日に日本ユネスコ国内委員会に申請を行いました。その後、6月23日に、くらし創造部人権施策課長と人権・地域教育課長の連名で、県庁職員に対して賛同の個人署名の協力依頼も行き、およそ1,400人の署名を集めました。

9月24日のユネスコ国内委員会で16件の申請物件から2件選定されましたが、本件は選定されませんでした。」

○沼田保健体育課長「小学生陸上競技記録会・学童水泳記録会についてご報告します。

運動する子どもと、そうでない子どもの二極化が進む中、小学生に運動に親しむ機会を提供し、児童同士の親睦を深めるとともに体力向上を図ることを目的に開催しました。陸上競技記録会は今年度で49回、学童水泳記録会は今年度で58回と、歴史のある大会です。

今後の課題として、キャパシティの問題、出場できる種目も一人当たり2種目しかないことが挙げられます。県と小学校体育研究会で実施してきた大会ですが、郡市別で大会を開催するなど、多くの児童が参加できるための工夫を検討していきたいと考えています。

このような事業への参加をきっかけの一つとして、子どもの体力が年々上昇していることは間違いなく、今後も精一杯取り組みたいと思います。」

○尾登文化財保存課長「奈良県の祭りや芸能の映像を公開・活用する事業のための寄付金募集に

議案及び議事内容

ついて、ご報告します。

本年6月議会で認めていただいております、インターネット上で寄付を募るクラウドファンディング事業で、9月28日から寄付の募集を始めています。具体的には昭和63年から平成21年度にかけて撮影した古い映像テープを、デジタル化して再活用しようとする事業です。目標金額は50万円で、これを上回った場合に事業を行うこととしています。寄付の募集は11月16日までとしています。

寄付をいただいた方に対する特典として、完成した映像作品のエンドロールに寄付者の名前を掲載させていただき、ガイドブックの進呈、橿原考古学研究所附属博物館の招待券のプレゼントを予定しています。

なお、先に募集しておりました「飛鳥・藤原地域」の写真を公募・活用する事業を実施するための寄付金募集については、目標額100万円に達せず不成立となっています。」

○吉田教育長「他にご意見がないようですので、承認してよろしいか。」

※各委員一致で承認

○吉田教育長「その他報告事項については承認いたします。」

○吉田教育長「本日の議案は全て終了いたしました。その他連絡・報告事項はありませんか。」

○中村次長「第2回奈良県教育サミットが、10月7日水曜日の午後、桜井市立図書館で開催されましたので概要をご報告します。

出席者は知事、松谷副知事、吉田教育長、各市町村長、各市町村教育長及び事務局でした。議題については、9月4日行われました第2回奈良県総合教育会議について、地域振興部長からご報告させていただきました。また平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について、吉田教育長よりご報告させていただきました。

その後グループ協議が行われました。グループからは、就学前教育及び家庭教育が必要であること、教師年齢の二極化が見られ、ベテランから若手へのスキルの継承が必要である、学校と保護者と地域の連携方法や、へき地などの小規模校についての取組例についての発言がありました。知事からは、学力・学習状況調査の結果はある意味、教師の成績表であるとの発言があり、あわせて、子どもの調査だけでなく、教師がどれだけ挨拶をしているか、調査してみるのも良いのではとの提案もありました。

今後の対応としては、県教育振興大綱の目次（素案）をもとに、より詳細な調査・分析を加え、県と市町村の間で、総合教育会議事務局担当者連携会議を開催するなど、更なる情報交換を行うこととします。予定では12月15日に第3回総合教育会議、翌年1月に第2回総合教育会議事務局担当者連携会議、2月初旬に県第3回奈良県教育サミットを開催し、県教育振興大綱の作成にむけて動き出します。詳細については次回に改めてご説明させていただきます。」

○吉田教育長「それではこれもちまして、本日の委員会を終了します。」